

幕領期の変遷

谷村陣屋での代官支配

柳沢氏預かり地から幕府領へ

宝永二年(一七〇五)三月、秋元家の川越転封と同時に、郡内領は徳川幕府に上知(土地をお上に返上すること)され、交換転封で甲斐国中三郡を領した柳沢吉保が、預かり地として支配することになった。実際には翌々四年から、柳沢氏の都留郡代官平岡次郎右衛門・同彦兵衛による大名預かり支配が開始された。

柳沢氏による預かり地支配から幕府代官(江戸幕府の役人で、幕府直轄地を支配し年貢収納その他民政をつかさどった)の支配へと変わったのは六年後の正徳三年(一七二二)中に幕府代官として長谷川六兵衛が都留郡支配を命ぜられた時からである。

長谷川六兵衛から幕末までの代官一覧表が市内に数点残されている。(『通史編』表1-4参照)年代はその年のうちの就任を示しているが、月日は不明である。

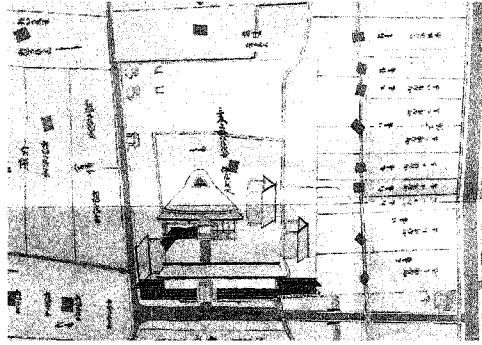
幕府代官支配と出張陣屋

長谷川六兵衛から享保六年(一七二二)中の河原清兵衛までは、代官が二人の場合が多い。この代官二人制の場合、例えば享保五年中からの江川太郎左衛門・河原清兵衛支配の時には、江川には上郷、河原には下郷と注記されていて、都留郡を二分して管轄した可能性

も考えられる。

また、機構刷新(現在のリストラ)の一環として代官処分が行われたとされている享保四年中には頻繁な交替があったことがうかがえる。

さて河原清兵衛は享保六年から同十一年中まで長期間、都留郡を支配した。そのため同九年、柳沢氏の大和郡山転封によって甲斐一



谷村陣屋(天明期)

国が幕府直轄領支配となった際には、柳沢氏から国中三郡の明細帳・高帳の受け取りに立ち会っている。ただし、河原清兵衛は伊豆三島陣屋を本陣屋としていたから、遅くとも享保五年中に、谷村陣屋は本陣屋としての歴史を終えたと推測される。その後、谷村陣屋は都留一郡を支配するものの、本陣屋に戻ることなく、出張陣屋として

位置づけられた。

郡内は、河原清兵衛の後は享保十一年に石和代官小宮山奎之進の支配となるが、同年中に、三島代官山田治右衛門が管轄した。以降上飯田代官、関東郡代預かりもみられるが、本陣屋は三島(宝暦八年廃止、以後韭山)で、国中の三陣屋(甲府・市川・石和)体制に組み込まれるのは宝暦十三年(一七六三)中からである。三陣屋体制のもとでは、基本的に石和陣屋が、谷村の本陣屋であった。

谷村陣屋の経営

谷村陣屋(代官所)は、宝永二年(一七〇五)の城下絵図に見える高山源五郎(甚五兵衛)屋敷跡(現在の裁判所辺)に置かれた。敷地総囲いのなかに、本陣一軒、長屋四軒のほか、田圃蔵四・番小屋一があった。

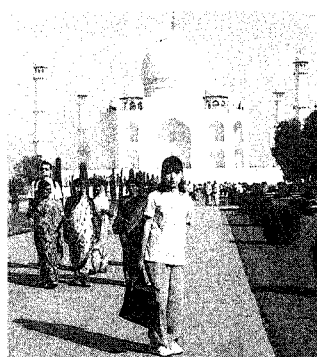
在陣員数については史料がなく確かな事はわからないが、陣屋の経費については嘉永元年(一八四八)、佐々木道太郎代官の入陣時の「諸入用勘定仕上目録」、および翌年前期の「勘定目録」が残されている。それによると、嘉永元年に幕府から谷村陣屋への支給金額は百両で、二月に三十三両、七月に三十三両、十二月に三十四両と支給されている。支出総額は九十四両三分と永一五三六分、残額は五両と永九十六文四分となっていて、翌年へ繰り越されている。

都留市史「通史編」より

やまなし海外女性セミナーに参加して

秋山 要子

山梨県では毎年、海外女性セミナーを企画しており、主旨として、海外各地で学んだことを地域の学習に生かすというものです。今までは、ヨーロッパあるいはアメリカ等で学んできましたが、今年は昨年中国での第四回世界会議において、アジアの中にこそ私たちの考える問題が多くあることに気づき、インド、タイ、マレーシア十二日間の研修が企画され、参加させていただきました。インドにおきましては五日間で、しかも、ニューデリー、オールドデリーが中心でしたので、とてもインドを訪問したとは言えませんが、日本大使館各種小学校、社会開発省、YWCA本部等視察研修、また、全インド女性会議に参加してまいりました。インドにはカースト制や、ヒンズー教の悪しき伝統があり、そして何より巨大な極貧国です。しかし反面イン



ドは、フルセット経済で人工衛星から弾道ミサイル、科学技術も優れているので空母も所有し、医療施設も揃っているすばらしい大国です。しかしながら巨大な貧困層を有しています。そして、男性社会の成り立ちから女性の社会進出が全く阻まれています。

私たちが目にしてきたことは、カースト制や慣習と戦いながら、女性たちにプライドを持たせるよう「草の根運動」を続けている女性たち。そして、従来の価値感と戦いながら、学びとろうとしている若い少女たちの姿。彼女たちが将来、女性差別という激しいさげすみに直面した時、嘆きだけでなく、再び立ち上がり、厚い壁と戦っていつてくれることを願わずにはいられません。

最後に私をバックアップしてくださいました都留ガールズスカウト、社会教育課の方々はこの紙面をおかりいたしました。心より厚く御礼申し上げます。